

そなえあれば
うれいなし

西淀 防災 Times

Vol. 4 令和4年8月10日発行

去る8月3日(水)、防災研修で西区阿波座にある「津波・高潮ステーション」に行って来ました！今回の防災 Times では津波・高潮ステーションで学んだ内容をお伝えします。



ダイナキューブ～津波災害体感シアター～

当日は25名の参加となり、2グループに分かれて丁寧なガイドを受けながら館内を見学しました。南海トラフ巨大地震のメカニズムを分かりやすく学んだり、前回(安政東海地震 1854年)発生時からの間隔を年表から読み取り何故南海トラフ地震は明日来てもおかしくない、と言われるのかを知ったり、また私たちの記憶に新しい、2019年に上陸し大阪に大きな被害をもたらした台風21号の淀川や安治川の様子等、貴重な動画を見たりしました。また、「津波・高潮ステーション」の目玉であるダイナキューブ(津波災害体感シアター)では、前面、左右側面、床面の4面にひとつながりの映像が映し出され、床面振動音響スピーカーによる音響演出が臨場感をさらに高め、大迫力の中で地震発生から津波が迫ってくる様子を体感しました。

海拔0メートル地帯を体験

海拔0メートル地帯とは、地表の高さが満潮時の平均水面よりも低い土地のことをいいます。大阪では、昭和初期から工業用水として多量の地下水を汲み上げたため、地盤沈下が起こり深刻な問題となりました。大阪府には約40km²の海拔0メートル地帯が広がり、約108万人の人々が生活しています。この海拔0メートルを体験できるよう、床面を海面に見立てた展示があり「もしここに海水が流れ込んで来たら…」と考えさせられました。ちなみに私たち西淀川支援学校がある西淀川区大和田2丁目は海拔0.6メートルです。

災害から生命を守る知恵

- 「学びのサロン」では東日本大震災に関する展示や、避難前後の備えについて知ることができます。
- ・万が一、連絡が取れない場合でも家族全員が落ち合える場所や連絡方法を決めておくこと。
 - ・地震・津波に被災した際の行動や心構えをあらかじめ知っておくこと。これらが重要です。

津波の心得5ヶ条



家族防災会議の重要性

万が一連絡がとれない場合でも、避難所などで家族全員が落ち合えるように、普段から「家族防災会議」で決めておきましょう。



避難場所の確認

- 離れた場所へ進出したとき、家族が落ち合う場所を決める。
- 避難場所までの安全な道順を確かめ、実際に歩いてみる。



安否確認の方法

- 避難時には自宅に貼り紙するなどの連絡方法を定める。
- 陸府県や近隣の電話番号を事前に確認する。



自宅内の安全確認

- 落下しやすい危険物や割れやすい家具はないか確認する。
- 家の中で2方向の避難出口が確保できているか確かめる。

その他

- 乳幼児、高齢者、病人がいる場合の避難方法を考える。
- ペットがいる場合の対応を考える。

地震発生数時間
どうすれば家族と落ち合える？



家庭での備蓄品

水道、ガス、電気などのライフラインが止まった場合を想定して、被災後7日間程度をのりきれられるように常に準備しておきましょう。

食料品



- 保存食品を用意し、定期的に取り替える

飲料水



- 1人あたり、1日3リットルの水
- 保存可能期間の日数は、ペットボトルで約1年、水道水で3日
- 色つきは染料が溶け出すため白紙色のポリタンクを使用

カセットコンロ



- ガスが止まったときに役立つ
- ガスボンベ、圓形燃料等でも代用できる

非常持ち出し袋

- 非常持ち出し品は、リュックサックなどにまとめて、緊急時にすぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 万が一のときに身元がわかるように、氏名・住所・連絡先などを記入しておきましょう。
- 避難の妨げにならない程度の重さにしましょう。目安は、成人男性15kg、成人女性10kgです。
- 1年に2～3回は、品質を点検しましょう。食料品や飲料水、医薬品は特に注意しましょう。

食料品



量 缶2～3個分

飲料水



水筒1つ分程度

ラジオ



懐中電灯との一対型や、手動発電タイプも便利

貴重品



まとめておきましょう

本校の取り組み

研修を終え、本校の取り組みを振り返ってみました。

1. 巨大地震が来たら、児童生徒及び教職員の安全を確保しグラウンドへ一次避難。
2. 二次避難を決断した場合、千船病院及び西淀工場までのルート of 安全確認を行う。
3. グラウンドにて防災袋を返却し、二次避難を開始。
4. 千船病院及び西淀工場の3階以上にて避難。

※ 備蓄食について：1日目は児童生徒分は防災袋の中に入っている食料を食べます。2日目、3日目分は安全を確認の上学校まで取りに帰ります。あるいは、避難場所を学校に移して保護者のお迎えを待ちます。（児童生徒分は、徴収金より2日間分購入しています。）

※ 各教室内に防災ヘルメットを5個ずつ均等配置しました。活用してください。



研修を終えて

大阪府全体の津波や高潮についての安全対策について学び安心感を得る一方で、その講じた対策を上回るような巨大地震が発生した時にどうすればいいのか、とても考えさせられました。西淀川支援学校も海拔ほぼ0メートル地帯です。しかも懸念されるのは周囲の地面の液化化現象です。もちろん津波も恐ろしいですが、西淀工場や千船病院へ逃げ延びるためには、車いすやバギーを押して通れる歩道が安全な状態であるか、ということも大きいです。万が一、液化化で歩道が寸断されていたら…、遊歩道の樹木が倒れていたら…、様々な想定外のことが起こり得る状態になるでしょう。私たち一人ひとりが、想定外の状態をイメージしてそれに対応するには、どうすれば良いかを考えあらかじめ話し合うことが必要なのではないかと思えます。命を守るためには、車いすやバギーを捨てなければならなくなるかも知れません。抱っこひもで子どもたちを抱っこして逃げる想定はできていますか。その抱っこひもを保護者に準備してもらえるのか。クラス会で担当の子どもたちの命をどう守るのか、話し合ってみてください。